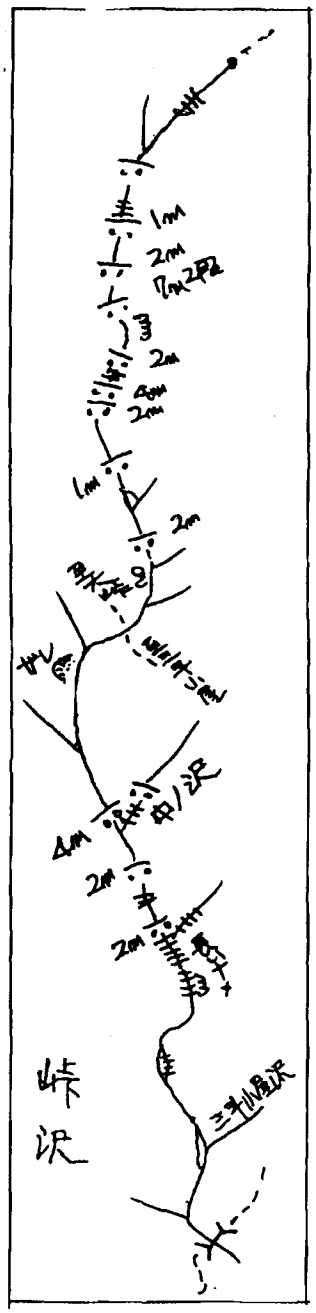


れでおしまいかと思っていたら，すぐまた水流が戻り，10m３段のナメ滝が出てきた。傾斜はそれほどきつくないので楽に登れる滝であるが，峠沢の最後のハイライトであった。

最後のナメ滝を過ぎると，沢はますますほそくなり，ブッシュがかぶさるようになってくる。やがて水流もなくなる。あとは左手の尾根めざしてヤブをこぐ。20分で大峠と三本槍岳を結ぶ登山道に出る。

（記・

［タイム］ 三斗小屋宿(5:25)→中ノ沢出合(6:05)→登山道(6:40)→遡行終了(8:10)→三本槍岳(8:45，9:00)

中ノ沢

1991年7月14日

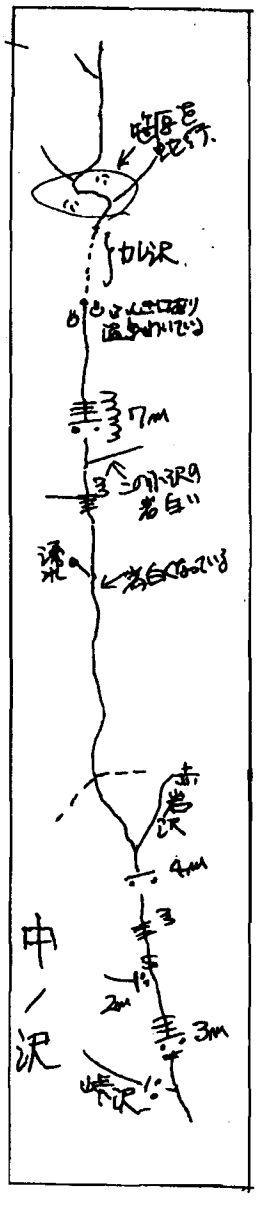
9:15清水平から中ノ沢の源頭をめざして下降開始。細い流れにそって15分程下ると，一面の笹原となった小さな盆地状の場所に出る。沢はここで蛇行しながら流れている。このあと沢はいったんカレ沢となるが，噴気口の直前で再び水流が戻る。噴気口は沢の両岸に３カ所あり，白い煙を吹き出し，イオウの臭いが充満していた。温泉も湧き出しており，引湯を試みたのか，パイプの残骸が見られた。

噴気口を後にしてしばらく下る。ずっと平凡な下りが続いていたが，ようやく滝が出てきた。７ｍ。この沢最大の滝である。溜木を利用しながら，右岸を下る。このあとは再び平凡となった。

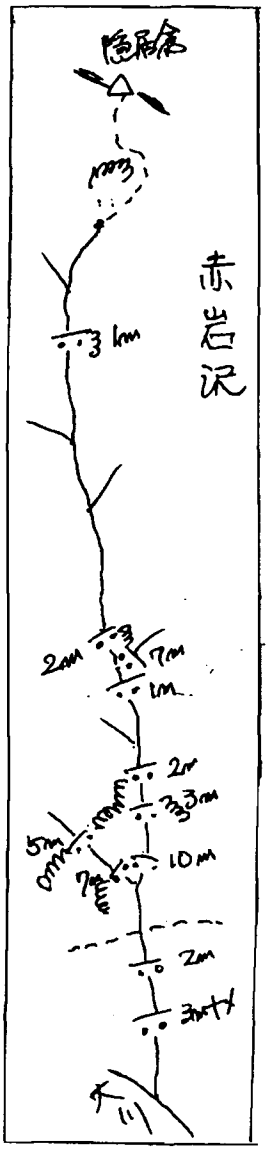
左岸から小沢が合流すると，沢床の石に白い沈着物が見られるようになった。水が混ざり合うことによって何か化学反応が生じているようである。この現象は，ここより更に下流でもう１カ所，右岸からの湧水が合流する地点にも見られた。

11:25大峠と三斗小屋温泉を結ぶ登山道を横切る。更に下降を続けると，赤岩沢を合わせた先に４ｍの滝が出てきた。右岸にのびる岩稜状の岩を下って通過する。水流のすぐ左手を登ることはできそうである。このあとナメと小滝を見て，11:50峠沢との合流点に出る。そこから更に40分の下降で三斗小屋宿に出，下降終了とする。

（記・　　）



［タイム］ 清水平（9:15）→登山道（11:25）→峠沢出合（11:50）→三斗小屋宿（12:35）



赤　岩　沢

1991年8月17日

三斗小屋宿より湯川（苦土川）本流を遡り，40分で中ノ沢出合。そこより更に15分で，今日の目的の沢である赤岩沢出合に到着する。赤岩沢は，中ノ沢に比べるとぐっと規模が小さく，あまり期待がもてそうにない。とにかく先を急ぐ。

小滝２つを越え30分程遡った所で，出てきました10ｍの滝。水量が少ないためあまり印象には残らないが，岩場の上から垂直に落下している。滝は直瀑でとても登れそうにない。おまけに両岸には岩場がのび，行く手をさえぎっている。左右どちらが楽か判断に苦しんだが，右岸の方の壁が低そうなので，そちらに取り付くことにする。壁とブッシュの境を進み，潅木を利用して４ｍ程の高さの岩場を登り，不安定なガレ場をトラバースして滝の上に出る。このあとは平凡となってしまった。